

道管理河川の水害リスク（二級河川）

標津川より南側

＜河川の特徴＞

- ・ 上流は、勾配が急で蛇行している箇所がある
- ・ 河川沿いの低平地には農地が広がり、市街地、集落が点在している
- ・ 市街地・集落を結ぶ道路が、河川と近接している箇所がある
- ・ 河口付近の平地には市街地が形成され、国道・道道などの幹線道路が河川を横過している。

＜洪水の特徴＞

- ・ 上流部は急激な水位上昇を伴う溢水、越水
- ・ 洪水流による河岸欠壊、堤防決壊
- ・ 河口付近の低地では、広範囲な浸水

想定される
水害リスク

- ・ 急激な水位上昇による家屋の浸水被害と住民等の逃げ遅れ
- ・ 公共施設等の被災による機能停止
- ・ 農地の被災や、道路・橋梁の侵食、浸水被害による集落の分断や物流への影響
- ・ 幹線道路の被災による輸送機能停止の長期化

忠類川より北側

オホーツク海



＜河川の特徴＞

- ・勾配が急で、蛇行している箇所がある
- ・河川沿いに住家等が点在し、主要な道路が近接している箇所がある
- ・河口付近には市街地・集落が形成され、主要な道路が河川を横過している。

＜洪水の特徴＞

- ・急激な水位上昇を伴う溢水、越水
- ・洪水流による河岸欠壊、堤防決壊
- ・大量の土砂や流木の流出による河道埋塞

想定される
水害リスク

- ・急激な水位上昇による家屋の浸水被害と住民等の逃げ遅れ
- ・公共施設等の被災による機能停止
- ・道路・橋梁の侵食、浸水被害による集落の分断や物流への影響
- ・幹線道路の被災による輸送機能停止の長期化

2. 現在の取組状況について

ハード対策

河川管理施設の整備に関する事項 ～河川整備の推進～

●水害から人命や財産を守るための河川整備

流下能力が不足している河道に対し、流下断面を確保するための河道掘削や堤防整備を実施

河川名	市町村名	施行年度	事業概要
標津川	中標津町	H29～H43(予定)	掘削工、築堤工、護岸工など



標津川広域河川改修
事業



河道内樹木伐採などの河川維持管理のあり方

・H28年の台風等による洪水被害を受けて、河川ごとに実施計画を立てて、予防保全型の考え方を取り入れた計画的な維持管理に取り組む（平成29年度より）

「河道内樹木伐採などの河川維持管理のあり方」の概要

【1】河川維持管理のあり方の検討背景

昨年8月中旬から下旬にかけて、一週間の間に3つの台風7号、11号、9号が本道に上陸し、その一週 間後には、台風10号が接近し、記録的な大雨となり、河川の氾濫などにより、甚大な被害が発生し、この被害も含め、平成28年度の道管理河川の被害は、89河川104箇所となっている。

これら一連の台風被害などを鑑み、樹木の伐採や堆積土砂の除去について、それぞれの地域の現状を踏まえ、河川の維持管理のあり方について、その方向性などを早急に検討することとした。

【2】気象概況及び被災状況

- ・今回の一連の台風による降雨では、道内でも比較的年間降水量の少ないオホーツクや十勝、上川、釧路総合振興局管内で大雨となっている。
- ・今回の災害による被害は、重要水防箇所を有する河川や水位周知河川、人口集中地区を有する河川以外の箇所でも多く、そのうち小河川がその半数を占めている。

【3】これまでの維持管理の状況

- ・河道内樹木の伐採や堆積土砂の除去といった河川の維持管理は、「公共土木施設の維持管理基本方針」において、流下能力を阻害し、出水時に洪水氾濫の原因となる恐れがある場合には、伐採などを行う（日常管理型）としている。
- ・現地で流下能力の阻害の程度を確認し、必要に応じて、近年に被災履歴のある河川や重要水防箇所を有する河川、水位周知河川、人口集中地区を有する河川を優先する維持管理を行ってきた。

【4】課題と方向性

- ・今回の河川被害やこれまでの樹木伐採などの維持管理を踏まえると、河道内の樹木や堆積土砂の除去は、速やかな対応がなされていない状況もあった。
- ・今回の被災や地域の現状を踏まえて、優先度の考え方などを整理し、治水や環境を考慮した実施への配慮事項について検討し、計画的に進める。実施にあたっては、コストの縮減の取組みを積極的に進めていく。

【5】河道内樹木伐採などの河川維持管理のあり方

(1) 今後の維持管理

① 対象河川

北海道で管理する河川数、1.2級水系合わせて1,540河川、延長約 12,300kmのうち、河川改修を行った河川（実施中を含む）などや将来改修を実施する必要のある河川、合わせて、約1,200河川、約7,800kmを対象とする。

② 維持管理の進め方

これまででは、日常管理型の管理区分のため、単年度ごとに、状況を確認した上で、その都度伐採などを行ってきた。

今後は、これまでの日常管理型に、予防保全の考えを取り入れ、河川ごとに伐採などの実施計画を作成し、PDCAサイクルにより河道内の樹木などの状態監視を行いながら、実施する。

Plan（計画）・・・河川ごとの「実施計画」を作成

- ・道全体の河川の年次案は、優先度の考え方を踏まえ、トータルコストの縮減やコストの平準化を図りながら作成し、その年次案に沿った河川ごとの「実施計画」（計画平面図、標準断面図）を作成する。
- ・伐採などのサイクルは、概ね10年とする。

Do（実施）・・・「実施計画」に基づき、伐採などを実施

- ・伐採などの実施にあたっては、「実施への配慮事項」を踏まえるとともに、地域の方々への適切で丁寧な説明や情報交換を行い、円滑な事業実施に努める。

Check（評価）・・・流下能力等の分析評価

- ・樹木伐採などの前後の維持管理状況を記録保存（電子台帳）し、流下能力等の分析評価を行う。

Action（改善）・・・分析評価で得られた結果を、実施計画などの修正などに反映

(2) 優先度の考え方

- ・今回の記録的大雨を踏まえ、「今回の台風等により被害が生じた河川」を最優先に着手する。
- ・次に、「重要水防箇所を有する河川」、「水位周知河川」、「人口集中地区を有する河川」、「河積阻害が著しい河川」をこれまでと同様に進める。
- ・今回、新たに、年間降水量が比較的少ない地域の河川も考慮し、「樹木の繁茂等の影響が顕著な小河川」についても優先して着手する。

(3) 実施への配慮事項

- ・伐採などの手法は、間伐や段階的施工などを検討する。
- ・伐採などの箇所は、河川管理施設等周辺の樹木は伐採し、水際の樹木は極力存置することが望ましい。
- ・伐採などの時期は、生息する動物の産卵などの繁殖期を避けるなど適切な時期に実施する。
- ・伐採などの必要性や環境への配慮事項等の丁寧な説明により、地域関係者との調整を行う。

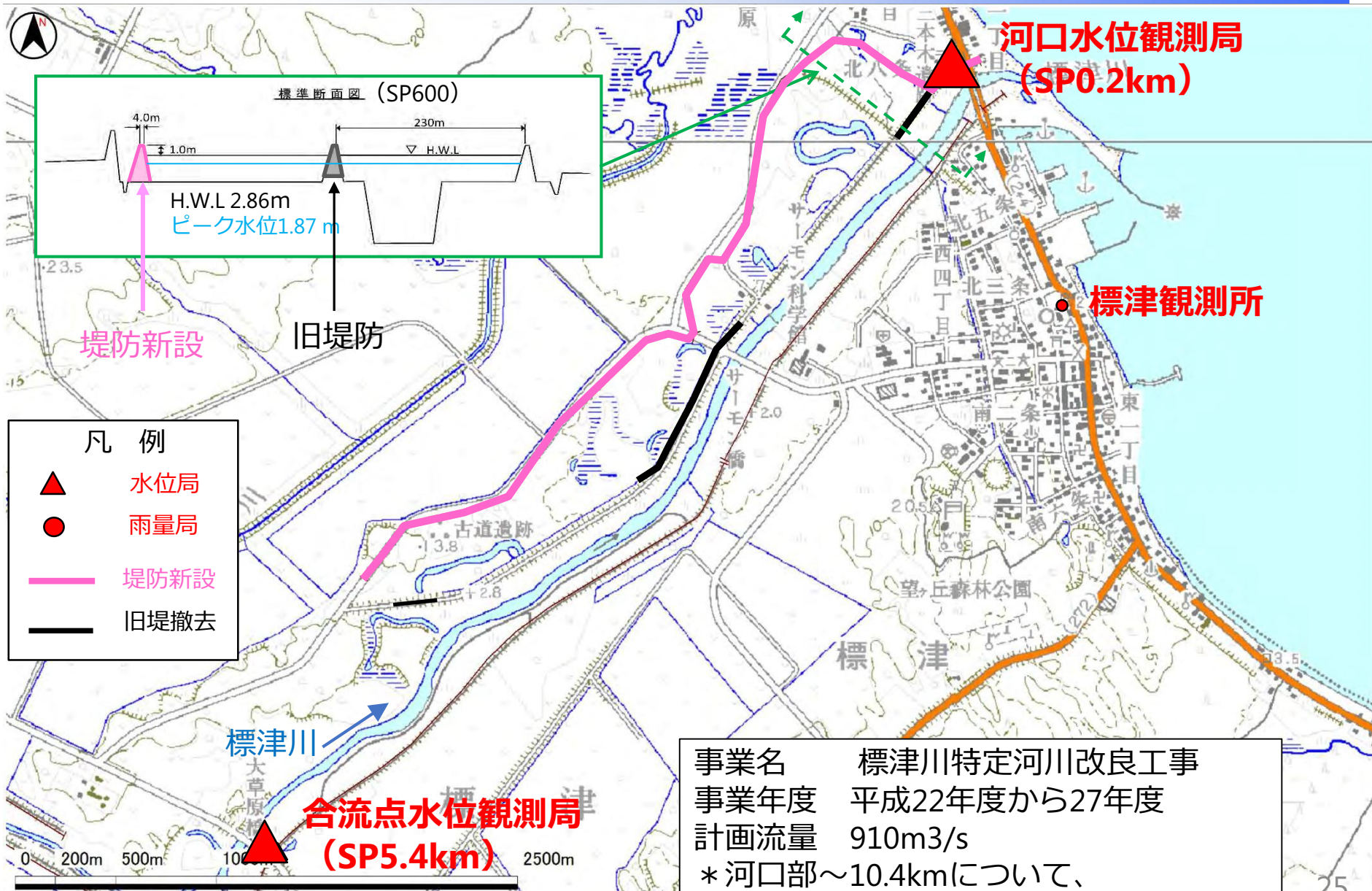
(4) コスト縮減に向けた取組

- ・メンテナンスサイクルによる計画的な実施により、高木化前に伐採などを行うことによる施工費の低減化を図る。
- ・バイオマス燃料への利用など伐採木の再利用による処分費用の削減を進める。
- ・維持管理費のコスト縮減にも寄与する「河床掘削代行工事」を推進する。
- ・市民団体協働の川づくり事業による伐木などを推進する。



北海道

河川整備の効果について（標津川 H28.8.23出水）



標津川（標津町） 平成28年8月23日の出水について

標津川河口部の平成28年8月23日の出水状況
（朝7時撮影）



合流点観測所 ピーク水位 7.08m（23日 8時20分）
撮影時水位 7.02m（23日 7時）

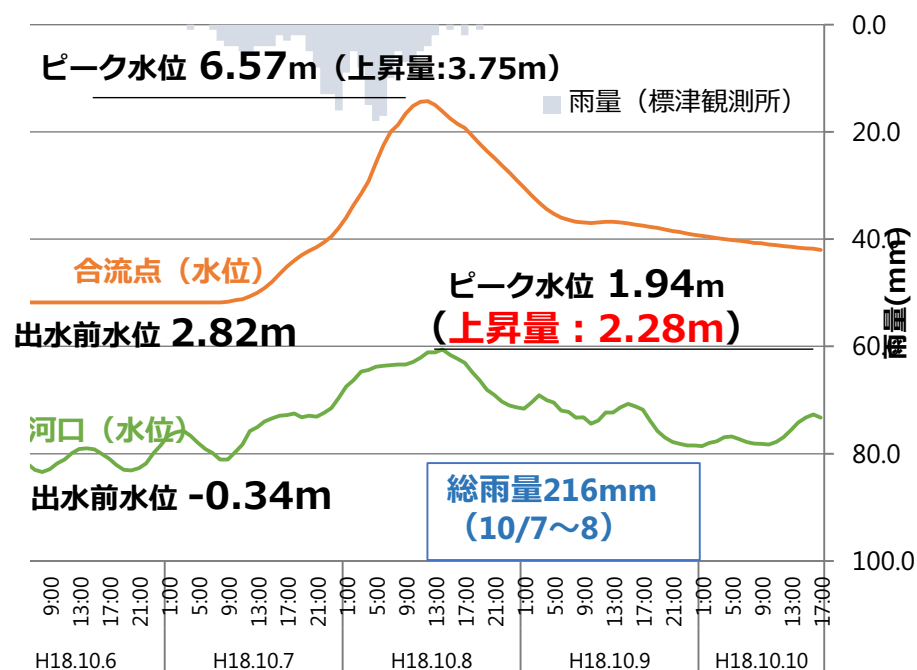
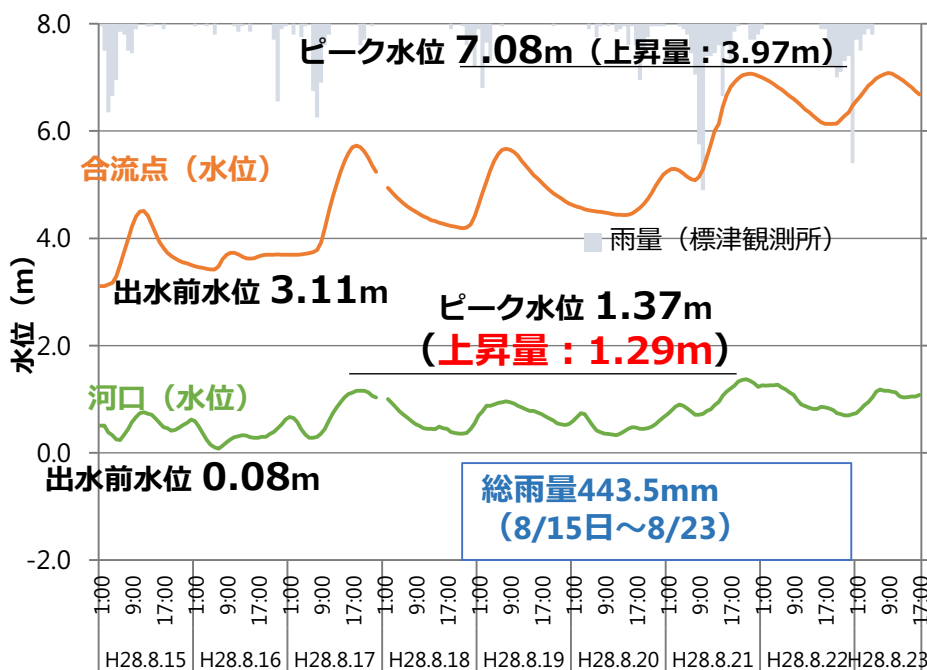
河川整備の効果について（標津川 H28年8月出水）

● 平成28年洪水と平成18年洪水の水位変化の比較

合流点水位
河口水位観測所

H28.8.15～8.23の水位、雨量

H18.10.6～10.10の水位、雨量



【水位上昇量の比較】

引き堤工事上流側→

合流点水位

H28年洪水

3.97m

H18年洪水

3.75m

>

引き堤工事下流側→

河口水位

1.29m

2.28m

≪

H28年洪水は、合流点の水位上昇量がH18年洪水より大きいにも関わらず、河口の水位上昇量が小さく、引き堤の効果が見られた。